

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年4月3日

(学) 小川学園 認定こども園あすみ中央幼稚園

1. 本園の教育目標

やさしい子・じょうぶな子・がんばる子を目指す理想のこども像として掲げ、多様な体験を友達と共有しながら楽しく過ごす教育・保育を提供する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

認定こども園に移行し、職員の働き方や配置が変わったのを機に、指導カリキュラムを細かく見直し、より質の高いものにしてくとともに、小学校との接続期の内容もコロナ禍を経て、以前より充実したものにしていく。また、令和8年度の千葉市幼稚園教育研究会（公開保育）を念頭に、園内研修の充実を図る。また、園庭をより指導に有効活用できるように計画的に改善していく。

3. 評価項目と取り組み状況及び評価

	評価項目	具体的な取り組み	評価
㊦	各学年の指導カリキュラムに従い、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指すとともに、年長の指導においては幼小接続の内容を見直す。	・子ども主体の活動を考え、年長から活動に取り組み始めた。進め方、準備、活動、片付けまでを一連の活動と考え、計画を立てていくようにした。 ・近隣の小学校のスタートカリキュラムに合わせて、アプローチカリキュラムを立てた。	B
㊧	認定こども園に移行した初年度として、教職員の指導体制を見直し、一人ひとりに目が届き無理のない体制を整える。	・預かりの早番遅番も加え、全体のシフト表をより細かいものにし、午後の預かりに遅番の職員が加わったことにより、より多くの目で子供を見ていくことができるようになった。	B
㊨	令和8年度の教育研究会（公開）を念頭に、園内研修の内容を新しくし、3年計画で進めていけるように、計画・実践・評価・改善を実行する。	・新しい遊びのリーダーを設け、本園ならではの遊びの創造を図った。 ・朝の自由遊びの時間を利用して、毎日、ホールでサーキット運動に取り組んできた。子どもの体の動きに良い傾向がみられるまで続けて、バランスや体幹が育つようにしていきたい。	B
㊩	園庭を子どもの遊びに有効活用できるように、改善していく計画を作成する。	・草を生やすエリアを作り、乗り物のコースを作るなど、アイデアを出し合い、計画を立てた。	C

4. 総合的な自己評価

評価	自己評価
B	認定こども園に移行し、満3歳児のクラスを他のクラスと並列に扱えるようになったので、目標設定や園全体での活動の際、常に4学年という構成で考えるようになった。社会情勢や幼児教育の動向がいろいろ変化しているので、職員のシフトも合わせて、もっと柔軟に物事を考えていく必要がある。そのスタートの年と考えると変革の歩みは小さいが確実に前進していると考え。 園内研修の内容を本年度新しくした。令和7年、8年と続けて成果が出るようにして、日常の活動にまで昇格させられる取り組みを一つでも多く見つけていけたらと考える。

5. 今後の課題

- ・本年度、重要事項として取り組んだ内容は、次年度も引き続き取り組んでいく内容である。特に子ども主体の活動については、保育者の考え方を新しく切り替えられるように一つひとつを見直していく必要がある。
- ・次年度創立30年目を迎え、園舎内外で点検や修繕が必要などところもあるが、特に園庭については、あまり予算をかけずに時世に合った子どもにとって有効な形に作り変えていきたい。
- ・コロナ禍中も細々とではあるが、小学校との連携を続けてきたが、今年度、近隣の小学校が幼保小連携の活動報告をする当番校になったこともあり、充実した内容になった。この活動を今後も継続していきけるように働きかけていきたい。

6. 学校関係者評価委員会（代表委員会）の評価

*認定こども園移行にあたり

○職員側にはシフトや配置などの変更を行うなど対策し、保護者側には事前に説明会を開くなどして特に大きな混乱もなく移行できたと思われる。こども園に移行したことで預かり保育利用者の増加や子ども一人に対しての利用時間の増加が考えられる。1日の利用時間が長くなる子どもに関しては、通常の保育から預かり保育に移る際に活動内容の違いが大きくなならないよう1日を通しての活動計画を立てていただきたい。また、預かり保育の活動内容についてもブログなどで公開いただけると嬉しい。

○コロナ禍を経て、少しずつ前のような活動に戻していく時期、また認定こども園になっていろいろ新しくなった時期であり、手探りな部分もあったと思うが、子どもたちのことをよく考え、見てくださって、感謝している。

○認定こども園になり先生方の負担が増大してしまったと思うが、子どもたち一人一人に寄り添いそれぞれ対応していただいた。1人の先生だけでなく、幼稚園の先生全体で一人ひとりの子どもを見てくださっている感じが伝わってきた。

*今日的課題について

○近年子どもの主体性をはぐくむことの重要性が高まっている中、園でもあすみっこくらぶなど新しい取り組みを行っている様子がうかがえる。この活動が、子どもの創造性や発想力、コミュニケーション

ョン能力、自立心や自信などの向上につながり、社会に出たときに必要となる協調性や問題解決能力の育成になるよう引き続き保育の工夫をしていただきたい。

○近隣小学校との交流は、子ども達にとってとても良いものだったと思う。自分の通う予定の小学校に行き、先生や1年生に遊びを教えてもらって楽しかったようで、小学校に入学してからも「この教室、来たことあるよ!」「あの先生と一緒に遊んだよ!」と自慢気に話してくれた。コロナ禍で縮小していた活動が、また前のように行えるようになってきたので、幼小の交流を今後も深め、小学校入学への良いステップになるといいなと思う。

○カスミや図書館といった近隣施設への見学は、子ども達にとっては新鮮で良い経験になった。カスミ見学→味噌汁づくり、図書館見学→読書といった活動のつながりもあり、よかったと思う。

○0歳児から参加できる「ふたば」をはじめ、「チャレンジミニスクール」「ちゅうりっぷくらぶ」など子育てへの継続した支援を行うなど地域貢献につながる活動も多く、入園前から幼稚園に出入りすることで親子ともに安心できる幼稚園である。卒園後も小学校の運動会に先生方が顔を出してくれたり、幼稚園の運動会の招待児レースに参加できたりなど卒園後も子ども達を大事にしてくれていることがわかる。

*園内研修について

○朝のサーキット運動はよい取り組みだと思う。サーキット運動は楽しそうだったし、毎日続けることで子ども達の体力向上、体幹やバランス感覚の育成になり、数年後の子ども達の成長の変化が楽しみだ。

○ホームページが新しくなり、保護者としてはとても見やすくなった。ブログを開設することにより以前より日々の活動がわかりやすくなった。園内研修の内容についてもこちらでアピールしていいと思う。

*要望について

○園庭の改造計画に関しては、子ども達の意見を聞いたり、作品を作ったり、子ども達と一緒に作り上げていただきたい。

○卒園近くに初めて、バス移動の遠足だったので、もっと遠足を実施してほしいと思った。時間ももう少し長めであればいいと思った。

○雨の日にかっぱを着て遊んだり、泥んこになって遊んだり、もっと自然遊びを取り入れてもいいかもしれない。

○お手紙に細かい誤りがあることが多いので改善を求める。